

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(18) 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本 (山北町川西)

標本番号 KPM-NP 18

標本名 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.4 m, 高さ 1 m

重量 10.0 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県足柄上郡山北町川西

緯度・経度 N35°22'10", E139°02'55"

標高 400 m

露頭の種別と現状 空き地を掘りこんだ切断面、現存

露頭面の向き、傾斜 おおむね NE-SW、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 1707 年 (富士宝永テフラ)

採集作業 山下浩之、笠間友博、石浜佐栄子

採集日 2007 年 7 月 19 日

関連文献等 宮地直道 (1984) 富士火山 1707 年火砕物の降
下に及ぼした風の影響. 火山 (第 2 集), 29:17-30.解説 標本採取場所の山北町川西は、KPM-NP 46 の山北町
堂山より 4 km ほど富士火山宝永火口に近い位置にある。
山地の斜面で採取した。富士宝永 (F-Ho) テフラは、富
士火山起源と考えられるスコリアを含む火山灰土層の上
に堆積し、上部は直接地表に露出するか、薄く表土に
覆われている。宮地 (1984) は富士宝永テフラを Ho I
~IV に区分したが、それらのすべての降下ユニットが保存されている。Ho IV は赤色スコリアを含まないことで
Ho III と区別されるが、保存が KPM-NP 46 に比べ良好で
ある。これは山中のため耕作による影響がなく、安定し
た森林によって土砂流出も少なかったためと思われる。

記録者 笠間友博



図 1a-18-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。

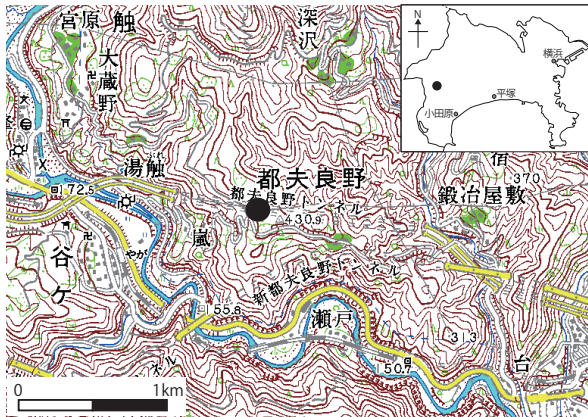


図 1a-18-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

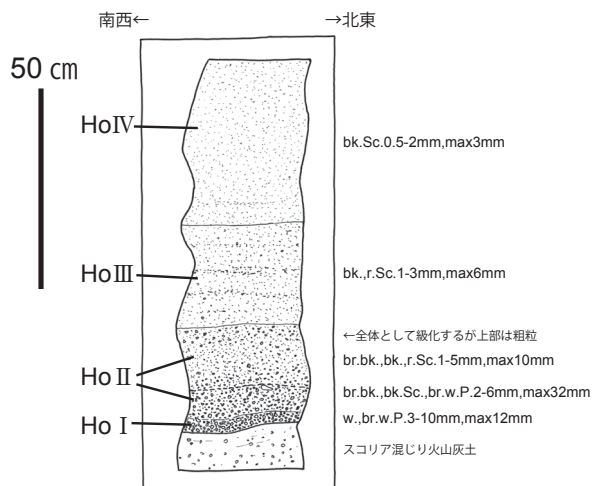


図 1a-18-3. 剥ぎ取り標本のスケッチ (左、笠間原図) と写真 (右)。